

速報 紀伊半島でマグニチュード5.7の地震発生

5月2日18時28分ごろ、近畿地方で最大震度4を観測する地震が発生しました。気象庁の速報値ではマグニチュード5.7、深さ70kmで発生し、西日本だけでなく、関東地方でも有感となりました。



DuMA ではこれまで紀伊半島で地震活動静穏化現象が発生している事を継続的に述べてきました。この地震が静穏化に対応する地震の可能性も存在します。

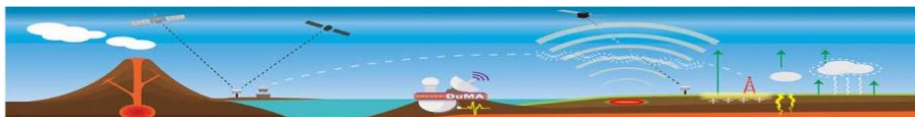
5月2日の地震は想定される南海トラフ地震の深部延長上で発生した地震で、内陸の活断層の地震より深く、沈み込んだフィリピン海プレート内部が破壊した地震でした。

今年は地震活動が活発？！

先日、ある雑誌メディアの記者の方から「2026年は2025年よりかなり地震活動が活発なのでは」という質問があり、2025年1月から4月と、2026年1月から4月までの日本列島およびその周辺海域の地震発生数について客観的に調べてみました。

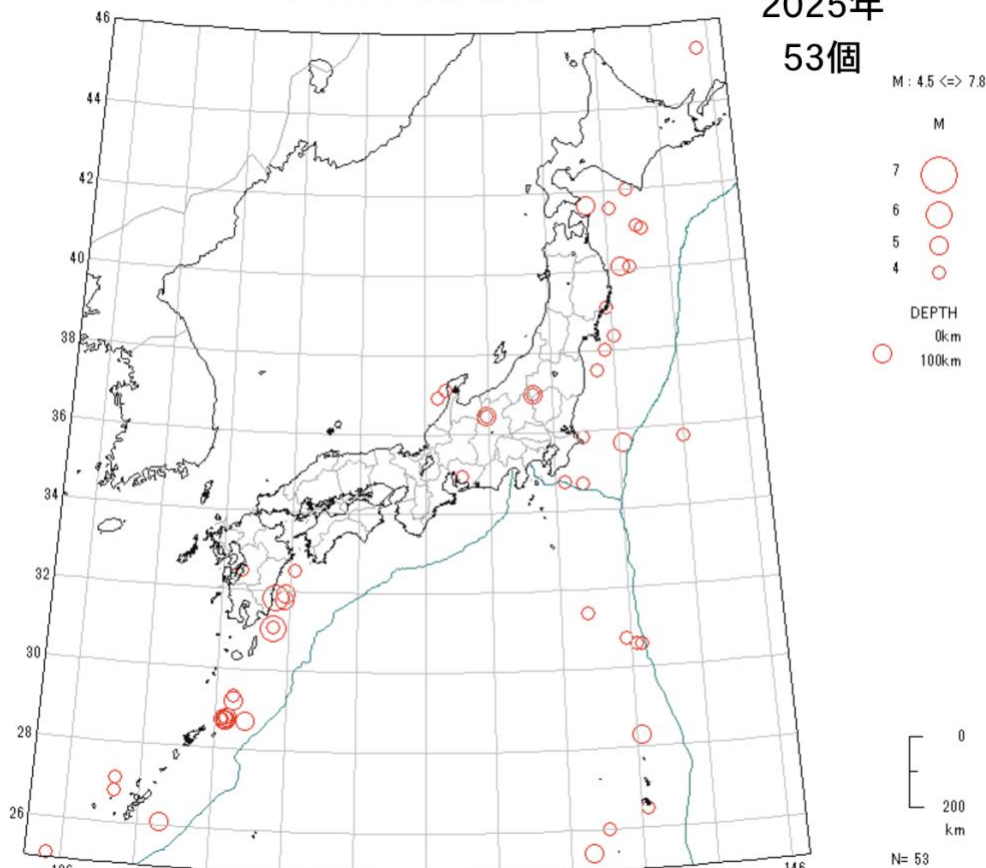
比較した期間は上記のとおり1月から4月までで、マグニチュード4.5以上の地震発生数を比較してみました。その結果、2025年は53個の地震が発生していた事がわかりました。それに対し、2026年は119個の地震が発生しており、雑誌記者の方の直感基本的には間違っていないという結論になりました。

次のページに2025年と2026年のいずれも1月から4月までの地震発生数の図を掲載いたします。2026年は東北沖でかなりの地震が発生しており、そこで数を稼いでいる事がわかりました。



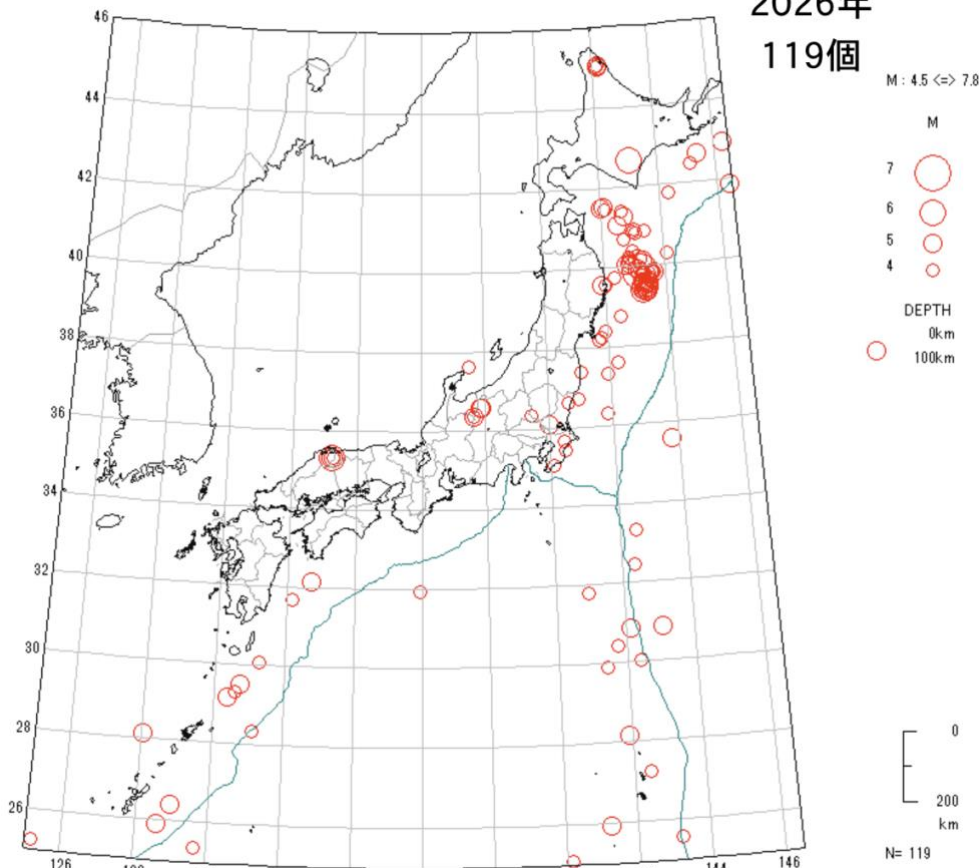
2025 1/1 0:0 -- 2025 4/30 23:59

2025年 53個



2026 1/1 0:0 -- 2026 4/30 23:59

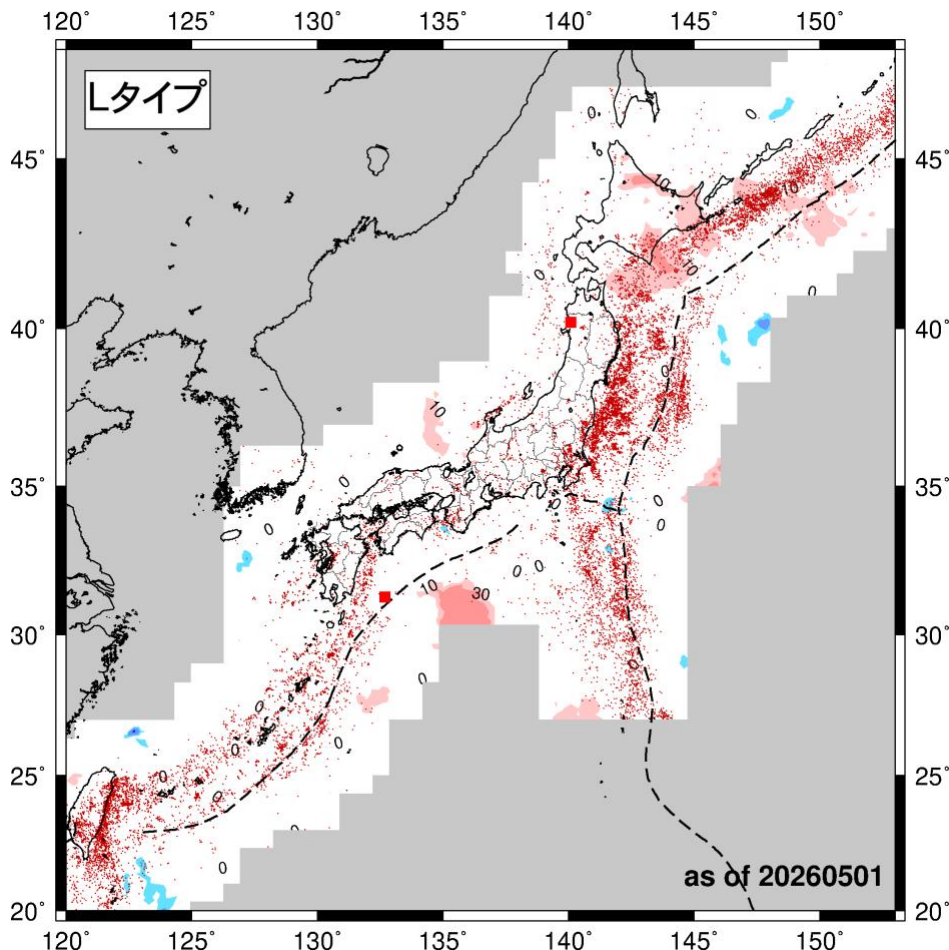
2026年 119個



日本およびその周辺の広域地下天気図®

3月16日のニュースレターに続き、現在の気象庁の観測網で解析できる最大範囲の領域の解析です。今週号では5月1日時点のLタイプ地下天気図をお示しします。

速報で5月2日に紀伊半島でM5.7の地震が発生した事をお伝えしましたが、下の地下天気図では紀伊半島の静穏化異常がすでに5月1日の時点で消失している事がわかります。



参考のため、3月16日のニュースレターに掲載の図を右下に再掲いたします。

この地下天気図では、紀伊半島に青い地震活動静穏化異常が出現している事がわかります。この紀伊半島の静穏化は3月23日のニュースレターでも確認する事ができます。

来週号では紀伊半島の静穏化の推移について、もう少し検討を行いたいと考えています。

